

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

5日に引き続き、通告順に発言を許します。

保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔17番 保坂 悟君登壇〕

○17番（保坂 悟君）

おはようございます。

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、（仮称）駅北子育て支援複合施設について。

(1) 市長選挙の公約「建設見直し」について。

① 市長公約に「あなた（市民）の声で新しい糸魚川」とあった。なぜ、施設自体の見直しについて、市民との対話や市議会との議論の機会を設けなかったのか。

(2) 「建設見直し」から「建設中止」について。

① 建設中止にしたことで、市民のどのような方が喜んでいるのか。また、その喜びとはどのような性格のものか。また、建設中止の最大の理由は何か。

(3) 「建設中止」から「汎用性のある広場の整備」について。

① 駅北に汎用性のある広場を整備することで、どのような方が喜ぶのか。また、その喜びとはどのような性格のものか。

② 市長との地区懇談会では、「汎用性のある広場」について、平日昼間の利用者のことや費用対効果の説明がなく、市長の熱量を感じなかった。「建設中止」のままではビル解体費が市の持ち出しになるから整備を行う性格のものか。

③ 駅北の国の財源について、駅北以外やソフト事業で使えると誤解している市民がいる。駅北の財源の特徴と仕組みや、一般財源の持ち出し分を当初計画と比較する形で広報等で周知する考えはあるか。

2、子育て支援について。

(1) RSウイルスワクチンについて。

新生児や乳幼児の重症化を防ぐため、妊婦向けの定期接種化の方針が出たが、今後どのようなスケジュールになるか。また、費用については無償化とするのか。

(2) 0歳から2歳児までの保育料の無償化について。

糸魚川市は、0歳から18歳までの一貫教育をうたっている。子育て支援についても同様に考えて、様々な家庭の事情に応えられる環境を整えるべきと考える。少子化だからこそ縮充の「充」として実施する考えはあるか。

(3) 学びの多様化学校の設置について。

総務文教常任委員会の市外調査で白石市の取組を学んできた。不登校の子供を持つ保護者

の精神的支援になることや、全ての卒業生が「授業が分かる」という体験により大きく成長し、志望する高校等に入学していた。当市でも同様のサービスを提供すべきと考える。当市の進捗状況はどうなっているか。

(4) 保護者の家庭教育の在り方について。

こども性暴力防止法や児童虐待防止法の周知について取組はあるか。

3、学校行政について。

(1) 小中学校の給食無償化について。

来年度の実施に向けた進捗状況はどうなっているか。

(2) 小学校体育館等のエアコン設置について。

今後のスケジュールはどうなっているか。

(3) 学校内外の防犯カメラの設置について。

不審者情報や行方不明者、熊やイノシシの出没等、子供たちを取り巻く環境は年を追うごとに悪化しているように感じる。また、いじめや交通事故等の抑止効果やこども性暴力防止法により、教職員等へのチェックも必要となる。財源（予算）のこともあるが、緊急的な対応が必要と考える。今後の整備スケジュールや設置規模等について、具体的な考えはあるか。

(4) 小中学校内に冷水器とミストの設置について。

猛暑・酷暑の際に冷たい水を常時提供できる環境が必要と考える。導入している自治体等を参考に、避難所機能の拡充も含めて検討する考えはあるか。

(5) 小中学校の非常時の備品管理について。

以前配備していただいた投光器や発電機とその燃料、さすまたのチェックと、今は熊よけの鈴の予備や熊スプレーの配備などは確実にやっているか。

4、予防医療について。

(1) 帯状疱疹ワクチンの助成について。

① 今年度より定期接種化されているが、対象者の接種率はどのくらいか。

② 定期接種化により組換えワクチンの自己負担は2回分で3万6,300円、生ワクチンは4,950円である。市民から負担軽減を求められている。ワクチンの通常費用の半額以下を目安に、組換えワクチンが2万円、生ワクチンが4,000円となるように助成を行うべきと考えるが、取り組む考えはあるか。

(2) 子宮頸がんワクチンの接種状況について。

① 中学1年生の女子を対象に接種費用は無料で行われているが、接種率はどのくらいか。

また、キャッチアップ接種の接種状況について、対象者とその接種率はどのくらいか。ワクチンの効果等の周知を考えているか。

(3) 予防医療における経済効果の見える化について。

① 健康づくりと医療費の抑制という視点で見える化を考えているか。

② 地域経済と労働生産性の向上という視点での見える化を考えているか。

③ 家庭や個人の経済的負担の軽減という視点で見える化を考えているか。

④ インフルエンザや新型コロナの感染が目立っている。コロナ禍における防止効果のあった取組の周知を改めて行うことを考えているか。

5、第2次糸魚川市新エネルギービジョン（令和3年度から令和12年度）のプロジェクトについて。

- (1) 地域住民主体による中小水力発電導入と地域活性化策の活用について、どのような動きがあるか。また、成果はあるか。
- (2) 民間事業者の中小水力発電事業の実施支援について、どのような動きがあるか。また、成果はあるか。
- (3) 持続可能な小規模木質バイオマス発電の導入について、森林管理の点や森林環境譲与税の活用の点からどのような動きがあるか。また、成果はあるか。
- (4) 公共施設への太陽光発電設備等及び蓄電池導入について、どのような動きがあるか。また、成果はあるか。
- (5) 様々なエネルギーを対象とした幅広い導入支援について、どのような動きがあるか。また、成果はあるか。特に核融合発電について何か情報はありますか。
- (6) 自治体主導による地域新電力会社設立に向けての調査研究について、どのような動きがあるか。また、成果はあるか。
  - ① 糸魚川市には株式会社INPEXの天然ガスパイプラインの供給バルブがある。それを生かす火力発電のプロジェクトや、その電力提供による工場誘致の取組を検討できないか。
  - ② 株式会社INPEXは、ブルー水素・アンモニアを製造する実証プラント「柏崎水素パーク」を開所した。将来それを生かす考えはあるか。

6、国の重点支援地方交付金・推奨事業メニューについて。

- (1) 生活者支援メニューについて。
  - ① 食料品の物価高騰に対する特別加算について、具体的な支援を検討しているか。
  - ② 物価高騰に伴う低所得者・高齢者世帯支援について、灯油等の支援について、検討しているか。
  - ③ 消費下支え等を通じた生活者支援について、プレミアム商品券や地域で使えるマイナポイント等の検討は考えているか。また、プロパンガスや灯油使用世帯への給付等を検討しているか。
- (2) 事業者支援メニューについて。
  - ① 医療・介護・保育施設、学校施設、公衆浴場等に対する物価高騰支援について、食料品価格の高騰分やエネルギー価格の高騰分に対する支援を検討しているか。
  - ② 農林水産業や地域公共交通・物流や地域観光業等に対する支援について、エネルギー価格高騰に対する影響緩和の取組などの支援を検討しているか。
- (3) 熊対策について使える国の交付金等はあるか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

改めまして、おはようございます。

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目及び2点目につきましては、計画が策定された経緯は重く受け止めておりますが、事業費の大きさや財政負担を懸念し、大規模な建物整備に対する不安の声を多く聞いたことから、選挙公約に掲げる中で市民と対話し、見直しについての理解と信任を得たと認識しております。

当初の計画で求めていた機能の一部は、見直し案をお示ししながら検討しております。

3点目につきましては、これまでの計画の目的と立地は踏襲した形で、汎用性のある広場の整備を進めたいと考えております。当初計画と見直し方針の比較について、まずは市議会に説明してまいります。

2番目と3番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

4番目の1点目の1つ目につきましては、10月末現在で15.6%であります。

2つ目につきましては、予防接種にかかる経費のうち、ワクチン代を自己負担していただき、接種にかかる、いわゆる技術料を公費負担としており、さらなる助成を行う予定はございません。

2点目につきましては、本市では、小学6年生から高校1年生相当までの女子を対象に実施しており、6年度の接種率は36.9%であります。

また、キャッチアップ接種については、6年度の対象者は平成9年4月2日から平成20年4月1日生まれの方で、接種率は57.0%であります。

ワクチンの効果等の周知については、対象者への個別通知やホームページなどにより実施しております。

3点目の1つ目につきましては、国民健康保険、後期高齢者医療保険の医療費推移について分析を行い、健康づくり事業の進捗状況と併せて確認を行っております。

2つ目につきましては、地域経済等に関してはデータの収集ができないため、予防医療における見える化には取り組めておりません。

3つ目につきましては、国民健康保険のデータを使用して健診を受けた方と受けない方のその後の医療費負担額の違いを示すなどの見える化を行い、予防のための受診勧奨を目的に周知にも取り組んでおります。

4つ目につきましては、引き続き、これまでと同様に対策の徹底を周知してまいります。

5番目の1点目につきましては、3年度と4年度に開催した地区懇談会において、多額の投資額や地域におけるリーダー役の不在により、住民主体における中小水力発電の導入は難しいとの声をいただいたことから、市としては、民間事業者による事業化を推進しております。

2点目につきましては、市内6河川において、民間事業者による事業化が検討されていることから、着実に前に進んでいると考えております。

3点目につきましては、森林管理や未利用材活用の観点から情報収集を進めておりますが、現状、具体的な動きはありません。

4点目につきましては、防災拠点施設や避難所での電源確保に有効な手段と捉えており、維持管理費や財源も踏まえ、慎重に検討してまいります。

5点目につきましては、情報収集に努めておりますが、核融合発電も含め、現状、具体的な動きはありません。引き続き、国のエネルギー施策の動向を注視してまいります。

6 点目につきましては、電力市場の高騰により、当面、自治体新電力会社の設立は望ましくないとの調査結果を受け、現在、民間事業者による事業化を推進しております。

1 点目につきましては、火力発電所の整備は、環境への影響や法令手続、採算性など多くの課題があり、今後も情報収集に努めてまいります。

2 点目につきましては、実証段階と聞いており、今後の動向を注視してまいります。

6 番目の 1 点目と 2 点目につきましては、国の支援メニューを確認しながら、事業実施に向け、検討しております。

物価の高騰については、食料品や生活必需品など様々な影響を及ぼしていることから、どのように支援することがよいか検討を進めております。

3 点目につきましては、今後、国の熊被害対策施策パッケージに基づき、環境省及び農林水産省からの交付金があると聞いております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりましては所管の部・課長からの答弁もあります。よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

    蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

    おはようございます。

    保坂議員のご質問にお答えいたします。

    2 番目の 1 点目につきましては、令和 8 年 4 月から定期接種として開始される見通しであります。また、費用につきましては、無償化の方向で検討してまいります。

    2 点目につきましては、子育て支援の充実を図る点で有効な施策と考えますが、将来的にも大きな財政負担を生じることから、現時点では、実施の予定はありません。

    3 点目につきましては、現在、小学 5 年生から中学 3 年生までの児童生徒及びその保護者を対象に多様な学びに関するアンケート調査を実施しております。実態把握を行った上で、多様な学びに対する施策を検討してまいります。

    4 点目につきましては、園や学校のほか児童福祉に関係のある方への周知に努めているところですが、機会を捉えてさらなる周知に努めてまいります。

    3 番目の 1 点目につきましては、まだ国から詳細が示されておりませんが、動向を注視しながら、来年度から実施できるよう対応してまいります。

    2 点目につきましては、今年度、中学校に導入した移動式エアコンの効果等を検証する中で検討を進めてまいります。

    3 点目につきましては、現在取り付けている防犯カメラは、学校施設等の安全管理及び犯罪予防を目的として設置したものであり、ご指摘のカメラについては、現時点では、設置予定はありません。

    4 点目につきましては、熱中症対策として児童生徒がどこでも飲めるように水筒を持参していることから、冷水器やミストの設置は予定していません。

    5 点目につきましては、学校の非常時における物品を配備し、教職員同士で保管場所や使用方法

について共有しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

それでは、2回目の質問を行います。順番どおり行きたいと思います。

まず、建設見直しについてであります。

市議会は、今年の5月の臨時議会において、子育て支援複合施設についての特別委員会を設置しました。それは、市長の建設見直しの公約を受けて議論する場所を市議会が用意した形となっております。市長公約で指摘されていた項目として、年間運営費の5,000万円の10年分の5億円について、14億8,000万円の高額な施設整備について、子育て支援センターの利用者と費用対効果について、既存施設の活用について、あと駅北がふさわしいのかどうかという投げかけについて、あとコンビニや銭湯といった商業施設が含まれていないこと、あと地元住民からの理解が得られているかというそういった懸念、ご指摘があり、見直しと市長は訴えておられました。

しかし、それらの指摘事項について、市議会や市民と対話することなく建設中止という決定をいたしました。市民の声を聞いて、新しい糸魚川をつくるんだという公約と少し矛盾するように感じますし、建設中止の方針自体は市長権限でありますので理解しているつもりですが、なぜそこまで急いでこのような決断をされたのか、改めてお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

4月の市長選挙を踏まえまして、その後、市長と担当課のほうでも協議をさせていただきました。その中で、今、議員おっしゃるとおり、見直しについてのその内容について、あらかじめ議会との協議といったところはございませんでしたけれども、建物建設の中止といったところで市長のお考えを表明させていただく中で、議会とは協議させていただいたというところがございます。

やはり今回のスケジュール感っていったところを見ましても、非常にやはり国の補助金を受けて、今事業を実施させていただいている中で、タイトなスケジュールといったところもございましたので、そのような形で進めさせていただいているというところがございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

あえて今回この質問をした理由としまして、実はやっぱり昨年、一昨年になりますか、能登半島

地震でやはりその津波の影響で、いろんな説明会の中でも津波に対する津波避難タワーであるかどうか、そういった対応ができないかという地域住民からの声もありました。まさにその見直しのところで、そういった津波避難に対する取組を、見直しという形ですからね、予算云々の上限はあるんですけども、そこに加えて、その避難タワーであるかどうか、避難ができる何か施策というものを、その見直しの中で、私検討できるものかなと思っておりました。

ただ、もうあれよあれよという間に中止から汎用性の広場という話になったんで、その津波に対する避難の施設についての声というものは、今回まるっきり反映されてないような形になっておるんですが、その辺についての検討なり、対応なりというものは考えていたのか、考えた上での結論が中止で、汎用性のほうに行ったのか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今ほど議員のご質問の津波避難ビルということでの検討でございますけれども、当初の計画の中でも、議会のほうからも一部ご指摘をいただきまして、津波避難ビルといったところの検討はできないかというところもお聞きする中で進めさせていっていただいたところがございます。

ただ、その中でも既存の津波避難ビルが駅北エリアにあるといったところを踏まえまして、この計画の中ではそういったところは考慮しないということでご説明をさせていただいたというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

またちょっと津波避難タワーのことは、また後で、また質問させていただきたいと思います。

次、2番目の建設中止についてのほうであります。

当初計画の建設中止にした理由について、どのように整理をされているのか。将来負担などの懸念材料から、その懸念が現実のものとなった経過や根拠についての説明が欲しいと思います。具体的には、新規の屋内施設が要らない理由であるかどうか。建設費が、例えばですけども10億円以下なら認められるけれども、10億円高いかな、8億円以下なら認められるけれども、それ以上は高いからとかという理由だとか、あと利用者が少ないからとか、あと子供が減るからとか、あと高齢者の利用がないからとか、あと物価高騰しているからなどの、要は、中止にした根本理由というものを行政側ではどういうふうに捉えて、聞かれた場合にどういった答えをするのか、そこを教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市長1回目の答弁でもお答えをしておりますとおり、やはりその事業費の大きさという中で財政負担を懸念して、大規模な建物整備に対する不安の声が多くあったといったところが大きな前提になるというふうに思っております。

ただ、それを踏まえまして、これまでの行政課題、市民要望といったところを踏まえながら、現在の計画地については汎用性のある広場、また、子育て世代に対する支援といたしましては、既存施設を活用した屋内遊戯場の整備ということで、新たなところをお示しする中で、現在計画のほうは変更させていただいて、進めさせていただいているというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

次に、（仮称）駅北子育て支援複合施設という施設名によって、駅北のにぎわいづくりと子育て支援事業の組合せについて、前回の改選期以後だと思うんですけども、論点が少し変わっていったなという印象があります。議論の中で、駅北復興計画なのに、なぜ商業施設を造らないのか、何で駅北に子育て支援の施設を造るのかという市民からのご意見がございました。

そもそもなんですけれども、民間主導で計画されておれば、商業ベースで話が進んだかなという印象を持っておりますが、そうはならなかったという背景があったわけですね。これについては、担当課もそうですけど、市長、それはどういうふうに受け止めていますか。もともとその商業ベースで話が進まなかったというそういう背景は、どういうふうに捉えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、商業ベースで話が進まなかったという部分については、当時、まだ私自身の関わりがない時点での話でございますので、いろんな私自身が当時所属しておりました区長会と、また地域の、駅北の地域の方々との会話の中で、そういう機能的な部分が少ないなという部分は耳にしておりました。

そういう中であって、商業ベースの部分について、国の財源を使う上で、それが可能なのかどうかという判断も、その時点では、私自身が不明瞭な部分もありましたけれども、幾つか話をお聞きする中で、そういう設置等については困難であるというふうな声もお聞きしておりましたので、そういう部分を含めて、当初の計画見直し等について、思案をしていたというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

以前、6月議会ですか、市長に質問させていただいたときに、商業施設という言葉が使われておいて、9月議会では、商業街に寄与する施設というふうな話もございました。今現在ですけども、汎用性の広場と訴えられておるんですけども、やはり駅北のところは、やっぱり商業施設がメインのまちづくりがよろしいと考えているのか、それとも今の実情を考えると、子育て支援に資する施設で行くべきだと思っているのか。その辺が整理していかないと、今後、汎用性の広場なんで、その商業系に行くのか、それとも子育て支援のほうに行くのか、結構、分岐点かなと思って見えて、それによってはまた今後の対応が変わっていくようなふうに思っておるんですけども、その辺の市長の捉え方、汎用性の広場という結論に至った理由としては、水面下でやっぱり商業施設の拡充という部分があるのか、その辺ちょっともしお考えが、もしどうか考えがあるから今、手を打っておられると思うんですが、その辺の考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

まず、駅北子育て支援複合施設の立地のところでございます。

基本的に、あそこの部分には一部民間の土地が含まれておりまして、あそこの部分、いわゆる角地といわれる部分の土地が民有地であると。そこに付随していいますと、あそこの本町通り、また駅前通りという部分において、いわゆるそこの部分の商業施設、また商業に携わる方々が、まだまだそこに存在しているという中において、あの角地のところの今後の整備計画、民間の方々のお考えもお聞きしながら進めていく上では、やっぱり町のにぎわいという部分が糸魚川市の当初の復興の観点でございましたので、そういう部分を見据えた上で、また、子供たちがその場で集えるようなという部分の意味で汎用性、また複合、回遊性という部分で対応していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

お話しいただきまして、ありがとうございます。

私の今回の駅北子育て支援複合施設についての考え方なんですけども、やっぱり1つ目には、今まで市内に一つもなかった屋内遊戯施設であること。暑くても寒くても、天候に関係なく利用できる施設として、長年の保護者等の要望があったということですね。

2つ目は、屋内遊戯施設と子育て支援施設が併設。要は子育て支援センターになりますけども、併設することによって発達障害等の相談をもとより、保護者に子供の様子から様々なアドバイスができる環境が整うというふうに捉えておりました。

3つ目は、子供の一時預かりサービスであります。働き方改革に伴い子供たちとの時間の取り方

やその変化、また共稼ぎ世帯、独り親世帯といった、生活における負担への支援ができること。

4つ目は、公共交通網の中心地となる糸魚川駅の近くにあることで、マイカーの利用はもちろんですが、電車やバスのご利用を、子供たちに経験させやすい立地になっているなどというふうに思っております。

また、糸魚川駅にはジオパルやヒスイ王国館、あと近くには糸魚川地区公民館、あと御風の生家があるとか、あの周辺のいろんなものを、何ていうのかな、散策できるような環境にも駅北の施設があることがいいのかなというふうに思っております。

5つ目です。今回ずっとこの計画を見ていて思ったんですが、やっぱりエッセンシャルワーカーといった、この糸魚川の町を支えている方たち、そういった方たちの、何ていうのかな、遠巻きに下支えとなる施設になるのかなど。人手不足の中、いかに子育て世代の方たちが、働き手として糸魚川に残っていただく。また、そういう働き手の方たちのニーズに応じていく施設になり得るのが、今回の子育て支援複合施設ではなかったのかというふうに理解しております。

今回やっぱり意見の違うところは、にぎわいの拠点というところで、それぞれのものを商業施設にしていこうという考え方と、福祉・教育の部分の拠点を置いて、そこに人が来てもらって、その来てもらった人を周りの民間の商業者が、やはりこの気持ちよくお金を使ってもらおうという、そこがどうも、何ていうのかな、うまくかみ合わなかった結果が今の流れになってるのかなと思っております。市長は、今後、汎用性の広場に今なってますけども、その商業的な中心で、あそこににぎわいをつくっていこうとするのか、それとも人が集まりやすい今の現状を、広場なら広場で整えて、周りの民間が、何ていうのかな、活動しやすくなるような形を描いているのか、まさにここはバックキャストになるんですけども、その辺のものをやっぱりビジョンをバンと言っていたらと、多分今回の計画というのが浸透しやすいと思うんですが、その辺の考えはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

行政側の考え方といたしましては、今計画しておりましたその地に人が集まる機能、それを行政としてできる、人が集まる機能を設置する中で、そこに集まった人々については、また商店街等に回遊していくと、そういった流れをつくれなにかといったところを根本的なところでは考えさせていただいて、これまでずっと来たというふうに理解をしております。

今回、汎用性のある広場というような形で、完全に商業ベースではございませんが、商業ベースにできなかったというのは、やはり国の補助金を頂くとといったところの経過もございまして、そういった中では完全な商業ベースといった形での整備はなかなか難しかったということでございまして、今回、汎用性のある広場といったところで、キッチンカー等もそちらの公園の広場の中に取り入れたりということも可能なんではないかといったところでの、そういった人を集める機能としての広場としての考え方で今進めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

ちょっと建設中止についての捉え方、もう一つの見方というのがございまして、実は、選挙を通じていろんな言葉があったのは、市長のいう建設見直しが、イコールもう建設中止というふうにつけておられる市民もおられまして、もう何も造らないんだという、そういう受け止め方をされた市民おりました。だから、建設中止と最初にバンとニュースに出たときに喜んだ方もおられました。だから、今回の質問の趣旨になっておるんですけども。それは、恐らくですけどもビル解体をして、更地にして、更地のまま何か民間に譲るだとか、あと、市にとって利益のあるような事業者が入るのであれば、条件をつけて提供するとかというふうな捉え方だったと思うんですけども。けども、その部分の見直しの議論もないまま、今度、汎用性のほうの話に行ってるわけですよ。だからその中止を願ってた市民の人たちの意見なり考えなりというものを受けられる機会なかったかと思うんですけど、そういったニーズに対しての市の見解というのはどのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

建物に関しましては、中止という形で市長のほうから表明がありまして、このような形で今現状に至っているというふうに思っておりますけれども、やはり行政が進めてきた計画といったところについては、やはり目的部分といったところは簡単に変えられるものではないというふうに思っております。

そうした中で、市長のほうで汎用性のある広場という形で今現在新しい形といいますか、少し整備内容は変えましたけれども本来の目的を達成するような内容で、新たな形で提案をさせていただいているというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

もともとの当初計画では、この駅北大火からの復興まちづくりとしてのにぎわいの拠点という手段としての屋内遊戯施設を中心に、複合的機能を持った、親子連れを中心に交流人口を図ろうとしたものであります。ありがたいことに概算整備費として当初14億8,000万円、そのうち約12億円が国のほうで補助していただけたという有利な財源であったと。それ自体は、子供たちや保護者も喜ぶこともありますし、糸魚川市に14億8,000万円規模の事業があるということは、経済的な効果もあるというふうにも捉えられるわけですけども。

ただ、それよりも、そういうお金を使うよりも中止、市長の言う見直しに中止というふうにも多分

求めた方たちからすると、まさにそのお金を使うことに対する反発もあったのかなと思って支持されてる部分もあったと思うんですけども、そういった声というのはちゃんと説明しておかないといけないんじゃないかなと思うんですが、その辺は特段問題ありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたしたいと思います。

いろんな市民の声というのは、多様な場所で声が上がってきているというふうに考えております。そういう中においても、議員の皆様からも4月当初に、個々18名の方とお話をさせてきた中で、いろんな私の考えも聞いていただきながら、またそれに対する意見も拝借しております。そういう意味でにおいて一切、何も声を私はむげにしているわけではないということをご理解していただきたいと思います。

それと、やっぱりこういう計画について言えば、その時点その時点でのやっぱり情勢があると思います。今現時点で、当初の計画をしつらえてきた中でやっぱり町なかのシャッターが閉じている場所が多くなってきている。また、民間の、いわゆる商業施設が閉じていく。そういう中において市の経済効果というのがそういう変化に伴って、やっぱり少しずつ縮まってきているという状況も見ながら、同時並行的に屋内遊戯施設をどう考えればいいのか。また、須沢等にある屋外との連動性をどうすればいいのか。そういうものも、やっぱり状況の変化とともにいろんな観点をつくり上げながら、建物でそれを解決できるのか。また、立地をどうやって有効に生かすために今後の在り方について検討すればいいのかという部分を、やっぱりいろんな視点を考えながら進めるというのが対話だと思っております。そういう中において、現時点で進行している整備計画についてご理解をしていただければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

私は、当初の計画の推進派だったんで、建設中止というご意見のあった市民に対しては、対案といますか、中止にして、にぎわいの拠点づくりどうされますかというのと、ほとんど回答は返ってこなかったです、正直言って。ただ建設中止ということにすごく話が、何ていうかな、集中してして、次のにぎわいであるだとか、次の、何ていうか子供とかそういう保護者への思いとかではなくて、単にやっぱり金額を見て、その施設を中止というような意向が強かったような印象がありましたので、その辺、行政としてどういうふうに捉えているのかということで、今回あえて誰が喜んで、そういった喜びというのはどういう性格なのかというのを把握されてるのかなということで質問させてもらいました。何ていうか、やっぱりこれまでの施設整備に対する説明が、やっぱりきちんと行き渡ってなかったのかなという気もしております。

次に、今度3番目の汎用性のある広場についてであります。

これも、当初、建設中心にして、ある程度時間をかけて駅北の構想を練るのかなというふうに私、思っておりましたが、中止からいきなり汎用性のある広場の整備というふうに提案となりました。

それで、ちょっと確認したいことは、選挙期間中ですね、市長の選挙期間中、この駅北に屋外広場が欲しいという声があったのかどうか、私、選挙期間回ってて、そういう広場が欲しいという声を1つも聞いてないもんですから、この整備をしたときに、本当に単純に誰が喜ぶのかなとか、誰が利用するのかなどといった、その根拠みたいなものをどういうふうに捉えているのかというのを確認のために、今ここで聞かせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

単純な言い方になりますけども、上越市にあるふわふわドーム等の、非常に利用といいますか、市民から屋外でのそういう子供たちが遊べる場所という部分については、私自身、多く耳にしておりました。そういう中において、広場という部分の発想が湧いてきたということでご理解をいただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

そうすると、ここから肝なんですけども、今の答弁いただくと、今回、駅北にある屋内遊戯施設を駅北エリア外とか駅北エリア内の既存施設に造るという話とか、あと、ちょっと違いますけど図書館を、各学校の図書館、廃校になった学校を使うとかという発想とかと一緒にするんですけども、もし広場で遊ぶ、ふわふわドームのニーズがあるのであれば、以前、阿部議員ですかね、委員会等で須沢の臨海公園のほうにそういった設備を設けたらどうかとか、あと、また能生のほうではマリンドリームの中の遊戯施設のところを整備を充実したほうがいいんじゃないかということ、じゃ、何で駅北なのかというところの理由が、多分、市民からの声のときに私はなかったんですけども、それを駅北に広場が必要なんだというところに帰着する理由がやっぱり薄いと思うんですけども、そこはどのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今、議員言われるように、ふわふわドームなりは駅北じゃなくても、よその場所でもいいじゃないかという議論もないわけではないというふうに思っております。

ただ、今回のその計画地での計画につきましては、大火からの復興を踏まえて、その場所に

整備するといったところからスタートさせていただいております。そこの部分の軸はずれてないと思っておりますので、そちらの計画地についてどうするかといったところを行政として検討させていただく中で、建物の整備は中止といたしましたけれども、当初の計画に基づき汎用性のある広場といった形で今ご提案をさせていただいているというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

市長懇談会で、子供が自由な発想で遊べる汎用性のある広場の整備を行うというね、資料にも書いてありましたけども、ただ単に箱物施設を造りたくないから、財源の関係もあって仕方なく広場にしたのかなというふうな受け止められ方もするんですね。

もう一つ理由があって、市長のその懇談会のとくに受け止めた感触とすれば、広場に対する市長の話にわくわく感というか、こういうものを造るんで、子供たちに来て、本当に思い切り遊んでもらいたいんだみたいな、保護者にも必ず喜んでもらえるような企画を練って、ソフトメニューも練ってやりますよみたいなのが、ちょっと全然伝わってこなかった。

あともう一つは、目的として、にぎわいの拠点というのであれば、選挙のときもご指摘あったとおり、じゃ、目標はね、何万人集めるんだとかね、そういう話も一切出てこなかった。だから、それは市内の人に本当に喜んでもらう施設に特化するとか、市外の人たちも巻き込んで、にぎわいをつくっていくんだって話が出てこなかったもんだから、あまりにも財源ありき計画ありき子育てに資する施設で、逆算的に何かつくられた汎用性の広場なのかなという受け止め方もするんで、本来は、やっぱりにぎわいの拠点とすれば、何かシンボリックなものを造って、そこに人を集めて、その集まった状態で、そこにおられる商業をされる方たちに、何ていうのかな、お金を落としてもらような形というのが理想だと思うんですけども、ちょっと今その辺が危うくないのかなってちょっと心配があるんですけども、その汎用性の広場のモチベーションというか、行政側が持つわくわく感をどのように提供していくか、何かその辺の戦略なり考えなりというものはあるんでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

わくわく感があるかどうかといったところに関しましては、今素案ということで議会のほうにもお示しさせていただいておりますが、広場の中にふわふわドーム、これは上越市のほうにはございますけれども市内にはこういった設備はございません。子供たちはこのふわふわドーム、非常に喜んで遊んでいただけるというふうに思っておりますし、また、噴水広場的なものも、なかなか市内ではございませんので、そういった面では子供たちにとっては非常に喜ばれる施設になるのではないかなというふうには考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

ちょっとそこはかみ合っていないようなので、でもそういったところをきちんと説明していかないと、できた後に、当初の考えとは違うんじゃないかとか言われても困るかなと思います。

次に、③番目ですね、財源についてのところで、財源の誤解でありますけど、これについては行政側はあまりどういうふうに認識されとるか分かんなんですけども、当初、整備費が14億8,000万円で10年間で5億円ということで、本来の市の真水の負担が大体2億7,380万円というふうに見て、資料を出していただいておりますが、どうもちまたのお話を聞くと、給食費の無償化だとか保育料の無償化、出産のお祝い金に使えるんじゃないかとかというふうに、もとの整備費、いわゆる投資的費用とかと、サービスのほうの経常的費用というものとごっちゃになった捉え方をしている市民がたくさんおられて、そういった部分についての情報の訂正とかそういうのって、私、必要だと思うんですけども、今回そういうのは特段なかったように思うんですが、その辺、今後そういう捉え方、特に財源、今後いろんな意味で国から取ってくる財源って厳しいんですけども、取ってきたものをやっぱり有効に使うという部分で、市民が誤解されるとよくないと思うので、この際そういった何かルールづくり等を考えたらどうかなと思うんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

確かにその財源的な部分でのご説明といったところが、市民の皆様に浸透していなかったかなという部分もあるかなというふうには思っております。今、議員おっしゃられるような形でのルールづくりといったところもなかなか難しいのかなというふうには思っておりますけれども、今後、よく市民の皆様に理解していただくといったところは重要だとは思っておりますので、今後も努めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

補足して、お答えさせていただきます。

現計画での整備費、それから維持管理にかかる経費に対して、全体の費用と一般財源でかかる部分というのは当然あるというふうに思っています。それで、それをまた見直し後の整備、汎用性のある広場ですとか、屋内遊戯施設を別の既存施設を使う。また今回の解約金等も含めて、そういっ

たものをしっかり比較する中で、今の市の計画をしっかり実行できるのはどちらのほうが正しいかというのをまた判断していただく必要があるというふうに思っています。今現在、その額がしっかり示せておりませんが、今後、今回の委員会ですかね、また3月の予算の中でしっかりお示しする中で、皆さんからご判断いただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

要は、せっかく注目を浴びている事業であって、それが財源のところでも誤解されて、何でも使えるような、むしろ市が何か財源いっぱい持ってるんじゃないかみたいな誤解されても困りますんで、そういった部分での説明を丁寧にやっていただきたいと思います。

最後に、先ほども言った、ちょっと提言というか提案になるんですけども、当初計画について、契約会社4者との話合いによってトータル約4,000万円の解約金になるのかなと思っております。ここまで来ると、もう相手方も了承しとるんで話を止めるとかってなかなか難しい状況なんですけども、今回、汎用性のある広場の計画について、大きな屋根を作るという話もあったんですが、技術的にどうかは別として、私の中では、先ほど冒頭のほうで言いましたとおり津波避難タワーという考え方を何とか国の防災とか減災の補助金で、汎用性の広場はこのぐらいの部分で、あとその上にやぐらを立てて、上に避難タワーとして展望台的に、大屋根の代わりと言っちゃあれですけども何かそういう構造物で、何か避難タワーを作れないかなと思っております。地上から約20メートルクラスの津波避難タワーであれば、その大屋根の部分もクリアできるし、日差し、雪の対策にもなるし、あと駅北が、もともと大火からの復興まちづくりで、大火に強いまちづくりという部分で防災・防火、そういった部分での親和性もあるということで、今回、能登半島地震というのが計画の間にあった出来事であり、大きくはなかったかもしれないけども、現に津波は確実に糸魚川にも来てるということ考えたときには、やはり別メニューというか別の補助金で、上屋と言うとまた誤解あるんですけど、別の施設として津波避難タワーを作ることが、多分、地域住民にも安心感を与えるし、屋根に、広場の屋根にもなるという部分で、何かちょっとメニュー探していただいて、整備も2段階方式で何かそういうのができないのかな。

ちょっと調べると静岡県伊豆市には、松原公園津波避難複合施設テラッセオレンジトイという、何かそういうちょっとレストランも入ったような避難タワーなんですけども、あります。ちょっとAIで検索して、こういう提案どうかなとやったら、非常にいい案ですねみたいな回答をいただいたんですけども、行政側の回答は、どのような回答になるか、ちょっと教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

大火からの復興に関しての施設といったところで、今、議員おっしゃられるとおり、そういった津波避難とか防災面での機能というのは、確かに魅力的な部分はあるかなというふうには思ってお

ります。

ただ、先ほどもご説明したとおり、当初計画の中でも津波避難ビルとしての機能はそこには持たせないといったところで整理をさせていただいております。既存の津波避難ビルが周辺にあるといったところで機能が充足しているといったところと、当該地における津波の想定高といったところも考慮する中で、そのような整理をさせていただいているものでございますので、議員おっしゃる部分、ご提案としては受け止めさせていただきますが、現状は、津波避難といったところでの想定は考えていないものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

ちょっと飛びますけども、予防医療のところの一番最後、インフルエンザとコロナワクチンのところであります。

国会の質問を聞いておまして、80代の方のインフルエンザで亡くなる方とコロナワクチンで亡くなる方には15倍の開きがあるというふうに聞いております。コロナのほうが死亡率がめちゃくちゃ高いんだということです。しかも高齢者になって罹患すると亡くなる率が非常に高いので、1,650円と8,000円になるのかな、接種費の違いが。80代以降の高齢者に向けて、コロナワクチンのところをちょっと調査していただいて、手厚くしてあげないと、死亡率が非常に高いということがちょっと懸念されますので、そういったところも対処していただきたいと思います。

それから、あとRSワクチンのほうは、今回無償化にさせていただけるということで、ある意味、画期的な取組かと思っております。私、9割ぐらいかなどと思ってたんですが、100%でやっていただけるということは非常にいいです。そのワクチンも、実は孫から高齢者に移るといった危険度が非常に高いというふうに伺っておりますので、そういった高齢化社会の中で、そういった人たちを守るといったことも非常に大事な観点かと思っておりますので、ぜひその辺ちょっと検証していただきたいと思っております。

以上で、私からの一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一です。

発言通告にのっとり、一般質問をさせていただきます。

1、公共施設使用料等の見直しについて。

市長との地区懇談会でも多くの会場で質問や意見が出され、市民の関心が高いことから、以下伺